

～2/12途上国と東北企業をつなぐ
オンラインセミナー向け～

タンザニア進出に向けた 基本情報

2021年02月

1. タンザニアの概況
2. タンザニアの開発課題・ニーズと
求められている技術・製品
3. タンザニアのビジネス環境（事例含む）

1. タンザニアの概況

タンザニア連合共和国の概況①

国概要

- 面積** 約94.5万平方km (日本の約2.5倍)
- 人口** 約5,731万人 (EAC 1位)
※高い人口成長率 (3.1% 2017年)
- 首都** ドドマ (人口約41万人)
※商都：ダルエスサラーム (人口約437万人)
- 宗教** キリスト教 約40%、イスラム教 約40%、
伝統宗教 約20%
- 言語** スワヒリ語 (国語)、英語 (公用語)
- 地理** 内陸国へのゲートウェイ



政治

【政治体制】

- ◆**タンガニーカ (本土)** と **ザンジバル (島嶼)** が合併してできた**連合共和国**。ザンジバルには独自の司法・立法・行政自治権があり、独自の大統領を有する
- ◆元首：マグフリ大統領 (2015年就任、任期5年) ※2020.10大統領選にて再選
- ◆現政権では、インフラ開発、産業化促進、汚職撲滅、ドドマへの首都移転を重視
- ◆ニエレレ初代大統領の進めた民族融和政策が根付き、独立以来クーデターを許さず**安定した内政を維持**

【外交】

- ◆東アフリカ共同体 (EAC) 南部アフリカ開発共同体 (SADC) に所属
- ◆社会主義時代から**中国との関係が強い**

経済

- ◆**経済成長率**：6.3%（2019年、IMF）、5.4%（2018年、世銀）
- ◆**一人当たりGNI**：1,020ドル（2018年、後発開発途上国） ◆**インフレ率**：3.5%（2019年、世銀）
- ◆**財政収支対GDP比率**：-1.5%、公的債務対GDP比率：38.1%
- ◆GDP構成は農業29%、工業33%、サービス38% ※建設業、情報通信、金融サービスが成長を牽引
- ◆タンザニア就労人口の約7割は農業に従事。

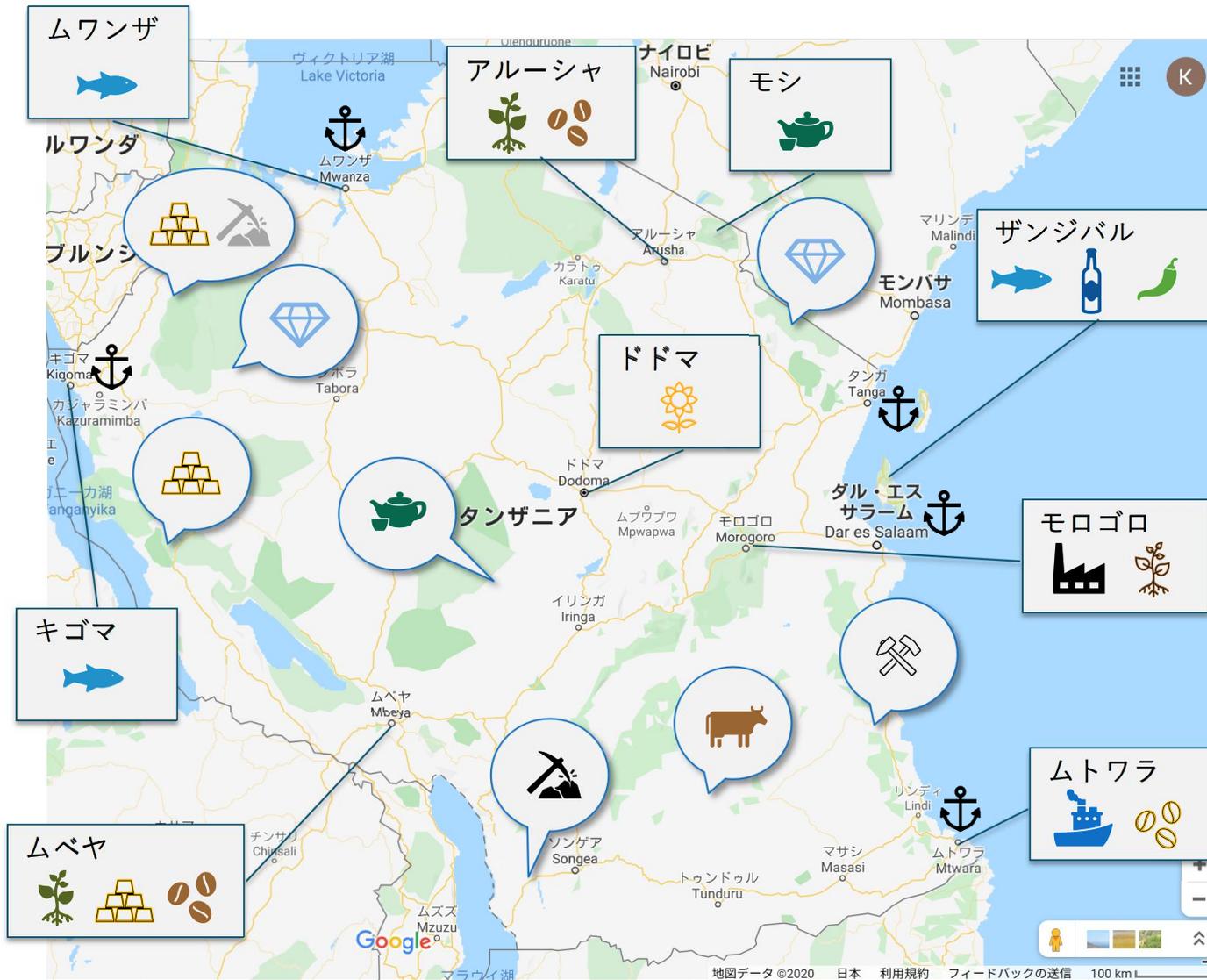
開発方針

- ◆**長期国家開発計画 VISION 2025**：2025年までの中所得国入りと一人当たり名目GDP3,000ドル目標
※2020.7世界銀行が低中所得国入りを発表
- ◆**第二次五か年開発計画（FYDPII、2016/17-20/21）**：工業化促進を重視。

現政権の主要経済政策

- ◆**経済成長率**：今後5年間で8%を目標
- ◆**インフラ整備**：幹線道路、橋梁、鉄道インフラ、水力や国内産天然ガスを利用した電力インフラ、配電・配送網、湖港インフラの整備。開発支出予算の約53.4%を配分予定。
- ◆**産業振興**：農業、畜産、漁業、観光業に集中的に投資し、雇用創出（800万人分 ※インフォーマルセクター含む）。農産品や食肉、魚類等の一次産品を原材料とする加工工場、鉱物の精錬や加工工場も奨励。
- ◆**貿易・投資他**：Blueprint実施を通じた税改革や手数料の廃止・軽減。不要な規則等を廃止。農業、工業/製造業を始めとした多様な産業に対する外国からの投資を歓迎。
- ◆**その他**：行政事務の改善、汚職対策の一層強化、国内各県にファイバーケーブル設置（インターネット使用率45%→80% 2025年まで）

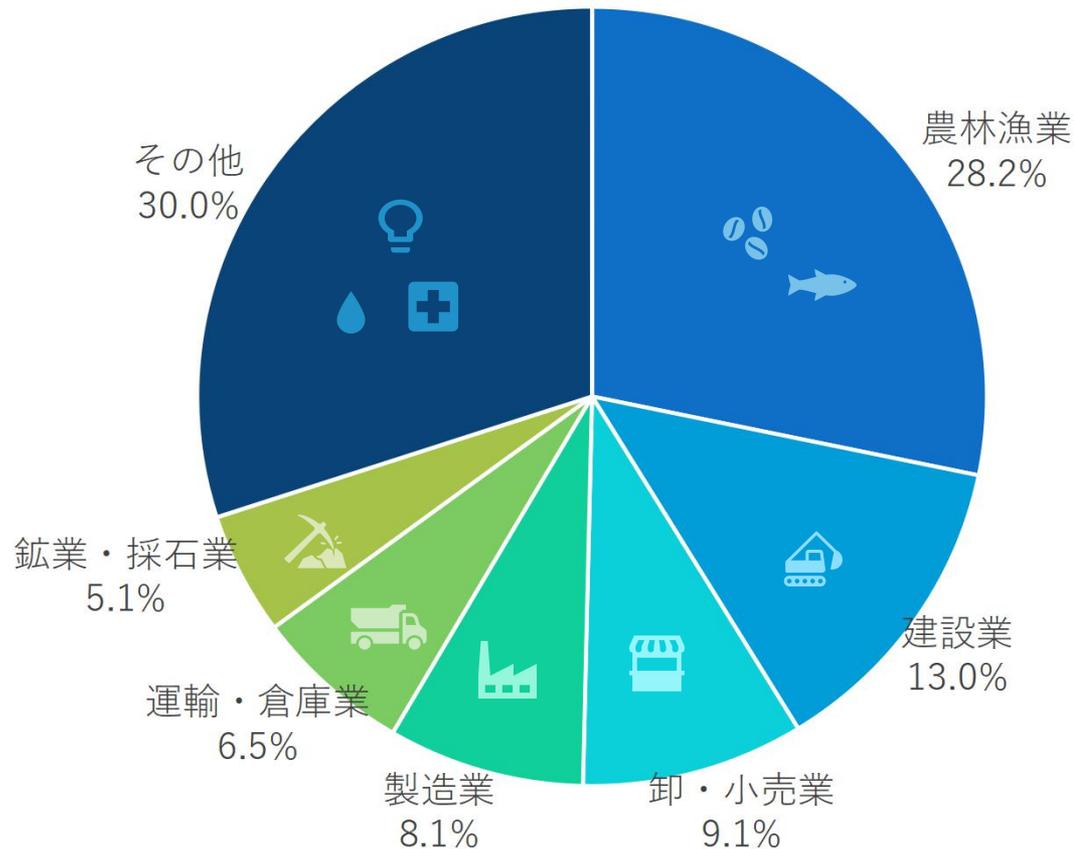
タンザニアの主要都市と産業



- コーヒー
- 紅茶
- 米
- ウラン
- 麻
- 畜産
- 金
- ひまわり油
- 銀
- スパイス
- ニッケル
- 石炭
- 宝石
- 天然ガス
- 水産加工
- 食品加工
- 金属加工
- カシューナッツ

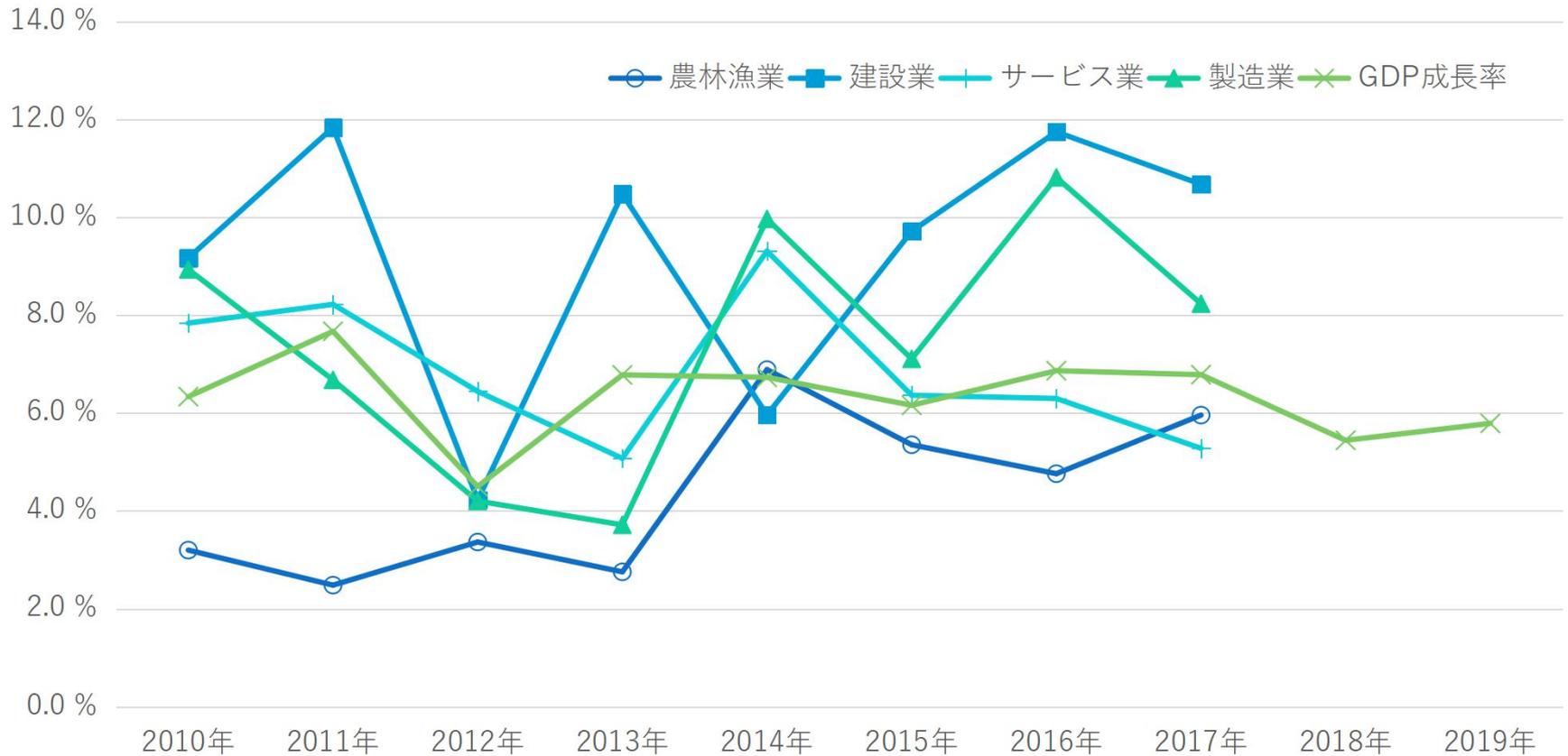
タンザニアの産業(名目GDP構成比)

名目GDPで比較すると、タンザニアにおいては農林漁業が約3割を占める（就労人口ベースでは約7割）。製造業のGDP比率は10%未満だが、長期的な開発目標の「Tanzania Development Vision 2025」において、製造業のGDP比率向上を目指している。



産業別 GDP成長率の推移

タンザニアのGDPは年率約6～8%の成長率で推移している。産業別では近年においては建設業・製造業の成長率が相対的に高い。



World Develop Indicators(World Bank)
[<https://databank.worldbank.org/source/world-development-indicators>](https://databank.worldbank.org/source/world-development-indicators)

開発指標から見たタンザニア

指標		数値・状況など
(1) 貧困率		削減幅は小さいが逡減 35.7%(00/01) → 28.2%(11/12) → 26.4%(17/18)
(2) ジニ係数 (本土)		格差縮小せず (広がっているという見方も) 0.35(00/01) → 0.35(07/08) → 0.34(11/12)
(3) 道路舗装率		国道 (幹線道路・州) : 59.8% (2016)→68.0% (2019) 地方 : 2%以下 (2012)→7% (2019)
(4) 電化率		37% (2019)
(5) 安全な水アクセス率		都市78%、地方44%
(6) 腐敗認識指数 (TI)		96位 (180か国中、2020) (ケニア137位、エチオピア96位、ルワンダ51位、 モザンビーク146位)
(7) Doing Business (世銀)		141位 (190か国中、2020) (ケニア56位、エチオピア159位、ルワンダ38位、 モザンビーク138位)

Reference from IEA

2. タンザニアの開発課題・ニーズと 求められている技術・製品

対タンザニア開発方針・実績

外務省「国別開発協力方針」より

2017年9月に策定された外務省の「国別開発方針」では、タンザニアは以下の3項目を重点分野としている。

- ◆ 我が国の対サブサハラ・アフリカ支援で**供与累計額トップ（3,929百万ドル、2016年度までの累計額）**
2017年度実績は74.21百万ドル（ネット）
- ◆ 有償・無償・技協の3スキームを積極的に展開

1. 経済成長のけん引セクターの育成



- ・ コメ生産支援，灌漑農業，フードバリューチェーン構築（「農業セクター開発プログラム（ASDP II (*1)）」）
- ・ 「FYDP II (*2)」の下，ビジネス環境改善，カイゼン等を通じた活力ある企業部門の育成等

2. 経済・社会開発を支えるインフラ開発



- ・ 運輸・交通，電力・エネルギー等の基盤インフラ整備
運輸交通：幹線交通及び都市交通の改善
電力・エネルギー：電力・天然ガス分野のマスタープランの実現等（ハード・ソフト両面）
- ・ 持続的な都市開発（生活インフラ含む）のニーズ増大に注目した支援

3. ガバナンス・行政サービスの向上



- ・ 地方行政，水，保健医療サービスなど基礎的な行政サービスの改善
- ・ 歳出計画の立案及び執行の適正化，税務・監査分野の能力向上等の公共財政管理の強化（歳入強化の観点）

(*1)タンザニア政府が推進する農業セクター開発の政策指針

(*2)タンザニア政府は経済成長と貧困削減を促進する「第二次国家開発5か年計画（FYDP II）」を2016年に策定

参照元：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072421.pdf>

独立行政法人 国際協力機構

1. 経済成長のけん引セクターの育成

- **ASDP支援プログラム**
 - ・ SHEPアプローチを活用した県農業開発計画実施能力強化プロジェクト(技) ～2024年
- **コメ生産振興プログラム**
 - ・ コメ振興能力強化プロジェクト(技) (未開始)
 - ・ 小規模灌漑開発事業(有償) ～2013年
- **産業開発プログラム**
 - ・ 品質・生産性向上(カイゼン)による製造業企業強化プロジェクトフェーズ2(技) ～2020年



2. 経済・社会開発を支えるインフラ開発

- **運輸・交通セクタープログラム**
 - ・ 道路セクター支援事業(一次・二次)(有償)(2019年完工)
 - ・ タザラ交差点改善計画(無償)(2018年完工)
 - ・ ダルエスサラーム都市交通マスタープラン改訂プロジェクト(開発調査)(2018年終了)
 - ・ ダルエスサラーム市交通機能向上計画(施工中)
 - ・ 第2次ニューバガモヨ道路拡幅計画(施工中)
- **電力セクタープログラム**
 - ・ ケニア-タンザニア連系送電線事業(有償)(施工中)
 - ・ イリンガーシニャンガ基幹送電線強化事業(有償)(施工中)
 - ・ 天然ガス普及促進プロジェクト(開発調査)～2021年
 - ・ 効率的な送配電システムのための能力開発プロジェクト・フェーズ2(未開始)



3. ガバナンス・行政サービスの向上

- **地方行政改革支援プログラム**
 - ・ 地方自治強化のための参加型計画策定とコミュニティ開発強化プロジェクトフェーズ2(技)～2021年
- **行財政管理強化プログラム**
 - ・ 内部監査能力強化プロジェクトフェーズ2(技)～2020年
 - ・ 税務行政能力強化プロジェクト(技)～2021年
- **保健システム強化プログラム**
 - ・ 地域中核病院マネジメント強化プロジェクト(技)～2020年
- **給水強化プログラム**
 - ・ ザンジバル水公社経営基盤整備プロジェクトフェーズ2(技)～2015年



農業・産業分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ (例)
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業バリューチェーン (投入・収穫後処理・加工・流通) の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産品の収穫後ロスを縮小する技術、または加工/品質管理技術 ・ 農産品の輸送技術や未舗装道路での輸送において農産品が痛まないような廉価な梱包資材等 ・ 作期に合わせた投入材の提供サービス
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中規模農家等を中心とする農村部住民の金融包摂 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モバイルマネー (M-Pesa等) の取引情報及びAI等を活用した信用スコアリングサービス・スマートフォンアプリ等のデジタル技術を活用したマイクロファイナンスサービスの拡大 ・ その他、担保要求を軽減させるようなサービスやビジネスモデル
水産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水産加工・流通に係る投資促進及び技術の向上による産業振興 ・ 雇用創出及び水産業関係者の生計向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁獲物の水産加工技術の導入及び加工による付加価値向上 ・ 養殖海藻の加工技術導入及び加工による付加価値向上 ・ コールドチェーンを含む流通・保蔵技術導入

農業・産業分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ (例)
産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリ種子及びヒマワリ油の生産性・品質向上 ・ヒマワリ油搾りかすの活用技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリ種子及びヒマワリ油の生産性・品質向上のための技術や機材 (粗油・精製油製造機械等) ・ヒマワリ油搾りかすの活用技術
産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・原料皮革と中間製品の品質向上と生産歩留まり ・新しい技術や近代的デザイン導入等による最終製品の品質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記に寄与する製品・技術



ヒマワリ油プロジェクトの式典の様子

参照元:

<https://www.jica.go.jp/tanzania/office/information/event/181121.html>

運輸交通・電力分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ
インフラ整備 運輸交通	<ul style="list-style-type: none"> ・雨季の道路冠水 ・交通事故 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路付帯設備やITS技術、 ・ドライバーが利用する製品、技術全般
インフラ整備 運輸交通	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤鉄道の運行管理効率化 ・通勤鉄道の利便性向上 ・鉄道関連施設のメンテナンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤鉄道の運行管理効率化や利便性向上 ・施設の適切なメンテナンスに資する、既存通勤鉄道に導入可能な製品、技術



雨季の道路冠水の様子

参照元:<https://www.jica.go.jp/oda/project/1760610/index.html>

運輸交通・電力分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の劣化や適切なメンテナンス不足による送電損失及び配電損失 ・電力需要の急増による配電線容量及び変電所における変圧器容量の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・送配電網を対象にした系統安定化システム及びそれらに関連する運用 ・維持管理に関連するノウハウ
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的で非効率な調理コンロの利用による健康、環境や経済面への悪影響 ・薪燃料確保のための過度な森林伐採 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的で非効率な調理コンロの利用による健康、環境や経済面への悪影響 ・薪燃料確保のための過度な森林伐採 <p>上記課題解決に資する改良コンロやLPG等の安価でクリーンな調理用エネルギー製品、技術全般</p>



ダルエスサラーム市内変電所

参照元:<https://www.jica.go.jp/oda/project/1460310/index.html>

地方行政、水、保健分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ (例)
その他	<ul style="list-style-type: none"> 行政サービス及びその効率性向上 行政官のITリテラシーの向上 行政サービスの遠隔化推進と必要なIT教育・訓練 	<ul style="list-style-type: none"> IT活用によるeラーニングシステムの提供 (学習、教材作成、配信、管理等)、システム維持管理方法のトレーニング eラーニングシステムの設計・開発・試験・運用に係るトレーニング 研修教材のデジタル化、コンテンツ制作管理操作・設計トレーニング

地方行政、水、保健分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ (例)
<p>水の浄化 水処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した水道施設の現状評価と施設対策 (修繕、更新) ・顧客管理、料金徴収 ・井戸データの整備 ・代替水源の検討 ・地下水資源の評価 ・取水量や塩水化状況の監視等 (ザンジバル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・給水時間増、水圧確保に向けた、老朽化した水道施設評価技術及び修繕技術 ・スマートフォンのアプリケーション等による顧客管理システム、料金徴収サービス、スマートメーター ・衛星画像等を活用した井戸データの整備、設置・利用状況の監視 ・補助的な代替水源の開発 (雨水利用等) ・(将来的なニーズとして) 流量、水位、水質等を測定するセンサーとIoTの遠隔の水源監視



ザンジバル水公社による井戸の修理作業

参照元:https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/18_hakusho/honbun/b4/s1_4.html

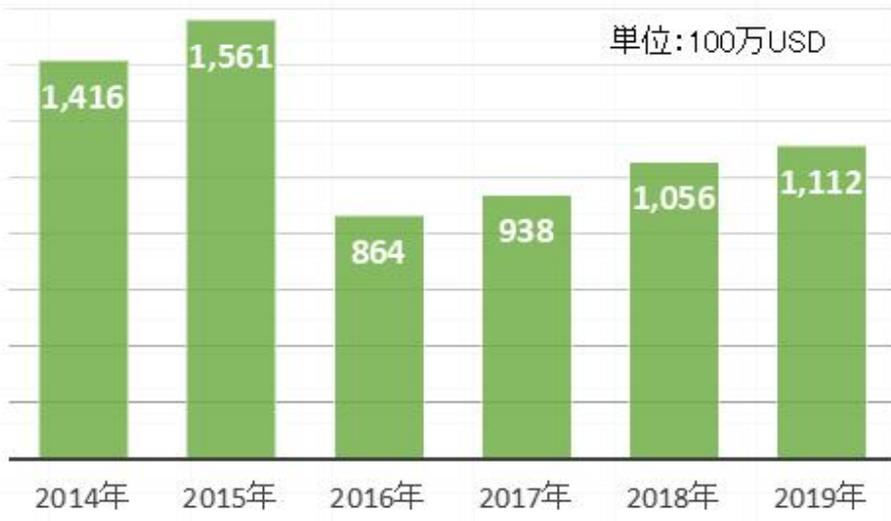
地方行政、水、保健分野の課題

民間企業の製品・技術の活用が期待される開発途上国の課題」 (JICA) より

対象分野	現状の問題点	活用が想定される製品・技術・ノウハウ (例)
保健医療	<p>< 共通 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルガバナンス強化 ・ 継続ケアや質の担保のためのデジタルヘルスサービスの活用促進 <p>< 母子保健 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊産婦死亡率が悪化傾向 ・ 包括的救急参加ケア整備の充実 ・ 子宮頸がん・乳がん対策強化に関する需要の増加 <p>< 感染症 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HIV/AIDS、マラリア及び結核三大感染症対策 ・ コミュニティに近い医療施設での検査機器の不足・不備による住民への検査サービスへのアクセス不足 <p>< NCDs ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がん、心疾患、糖尿病、高血圧等の非感染性疾患の増加 ・ デジタル機器を含めたX線等の画像診断機器の不足、老朽化 	<p>< 共通 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔診療に関する製品・技術・ノウハウ <p>< 母子保健 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的救急参加ケア整備の充実、子宮頸がん・乳がん対策強化に関連する製品・技術・ノウハウ <p>< 感染症 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ POCT (Point of Care Testing) 機器 <p>< NCDs ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NCDs発症前の予備軍を特定し、早期発見・早期治療対策をするための製品・技術・ノウハウ ・ デジタル機器を含めたX線などの画像診断機器やその整備技術・サービス

3. タンザニアのビジネス環境

対タンザニア直接投資 (FDI)



参照元) UNCTAD 「World Investment Report 2020」

【インド企業】

- ◆ 機械 : Tata International, TSV, Mahindra
- ◆ 建設/鉄鋼 : Banco Products, Kamal Group Industry
- ◆ 鉱物 : National Mineral Development Co
- ◆ 通信 : Bharti Airtel

【ベトナム企業】

- ◆ 通信 : Halotel Tanzania

(日本以外の) 外資企業事例

【欧米企業】

- ◆ 資源開発 : BG, Ophir, Statoil/Exxon Mobil, MAUREL&PROM
- ◆ 自動車 : BMW, Land Rover, Volks Wargem Volvo
- ◆ 通信 : Vodafone, Tigo
- ◆ 電子機器・ICT : Nokia, Apple
General Electroic, IBM
- ◆ 食品 : Unilever, Nestle, ED&F Man
- ◆ アプリ : Uber

【中国企業】

- ◆ 建設 : Sinohydro Corporation
China road and Bridge Corporation
- ◆ 通信・電子機器 : ZTE, Acer, HTC, Huawei
- ◆ 四輪車・二輪車 : Foton Motor, FAW

【韓国企業】

- ◆ 家電 : LG
- ◆ 電子機器 : SAMSUNG
- ◆ 四輪車 : 現代自動車

参照元) 「タンザニア経済概況とビジネス環境」(2020月4月) ジェトロ
ナイロビ事務所

日系企業進出状況

- ◆ **在タンザニア日本人会商工部会** ※2021年1月時点
正会員数 13社・団体（主に建設、商社、旅行会社など）
- ◆ **在留邦人** ※2019年10月1日時点
292名（長期滞在者）
- ◆ **民間企業拠点数** ※2019年10月1日時点
37社（うち海外支店9社、100%出資現地法人10社、合併企業7社、日本人起業11社）

参照元) 外務省「海外在留邦人数調査統計」(2020月版)

活動事例

- ◆ **ビーフォワード**：中古車の販売
- ◆ **関西ペイント**：各種塗料の製造、販売
- ◆ **JT**：Tanzania Cigarette Companyに出資し、タバコを生産販売
- ◆ **住友化学**：AtoZに出資し、マラリア対策蚊帳、化学肥料の販売
- ◆ **Matoborwa**：干しイモ、ドライフルーツの製造、販売
- ◆ **WASSHA**：無電化村地域における売電システム
- ◆ **セントパーツ**：中古車部品の販売

参照元) 「タンザニア経済概況とビジネス環境」
(2020月4月) ジェトロ ナイロビ事務所



タンザニアにおけるJICA民間連携事業

タンザニアでは、2020年度第一回募集までに23件の採択案件がある（旧BOPビジネス連携促進も含む）。分野は農業、保健医療、その他（主にエネルギー）を中心に、多岐に亘る。また海外投融資では1件実施中。
 ※薄字は終了案件

	基礎調査	案件化調査	普及・実証・ビジネス化
1. 経済成長のけん引セクターの育成 	日新蜂蜜（養蜂） 川上木材（木材）	サタケ（精米） セントパーツ（自動車整備） ヤマハ（木材） Seed Africa（農機） オーガニックソリューションズ・ジャパン（食品加工） コムプリスカンパニー（自動車）	キッコーマン（大豆） 照沼勝一商店（干し芋）
2. 経済・社会開発を支えるインフラ開発 	スタジオキャンビー（交通アプリ） カグラペーパーテック（LPガスペーパーライザー）	辻プラスチック（道路鋳） 日永インターナショナル（固形燃料） 日本ジャトロファ（バイオエネルギー）	トロムソ（固形燃料） ダイキン工業（エアコン） [海投] WASSHA（オフグリッド）
3. ガバナンス・行政サービスの向上 	ジーキューブ（透析用水）	西村医科器械（医療サービス） フマキラー（防蚊剤）	POLY-GLU（浄水器）

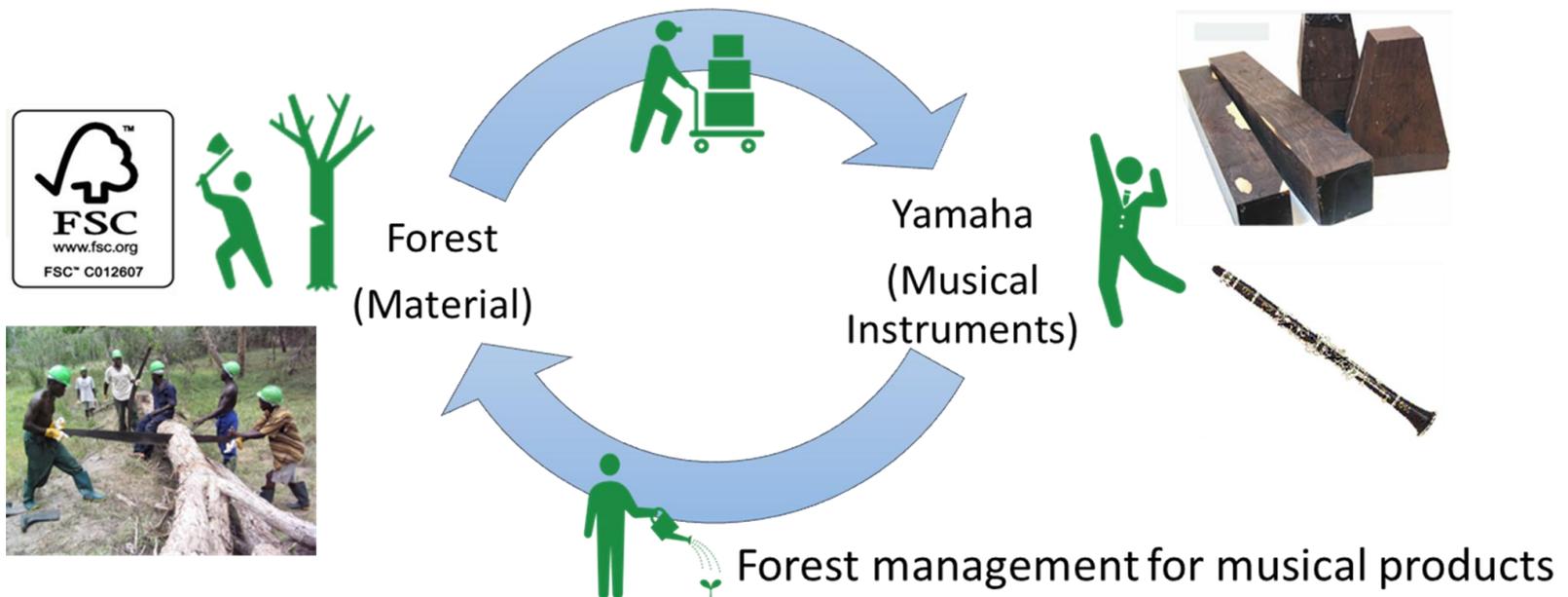
市場志向型農業を可能にするサツマイモの品種、栽培・貯蔵技術の普及・実証事業



タンザニア国FSC認証森林からの持続的な木材調達事業準備調査

現地NGOと協力して植林や持続的な森林経営を行うとともに、既存の楽器製造技術・販売マーケットを活かした資源の安定利用、材料の利用効率向上の実現を以て、楽器用材料として重要なアフリカン・ブラックウッドの安定的調達及び森林コミュニティの持続的な開発を目指すもの。

Creation of a recycling supply chain



サブサハラ・アフリカ地域 オフグリッド太陽光事業

当該地域において、未電化地域の村落にあるキオスク（小売店）に太陽光パネルを設置し、キオスクに来店するユーザー（BOP層）に対して、LEDランタンの充電・レンタル、及び携帯電話の充電サービスを行う。



出資

(代表企業のみ記載)



灯油ランプをLEDランタンに置き換えて勉強する子供

1. BOP層に電気のある生活

- ✓ サブサハラ・アフリカの未電化人口は約6億人。2025年まで未電化人口は増加見込み。電化率は32%（地方部は17%）。電力にアクセスできないBOP世帯は、料理用の木炭・薪や、照明用の灯油ランプ等、伝統的な一次エネルギーに依存しており、煙による健康被害や、温室効果ガスの排出が問題となっている。
- ✓ 本事業は、灯油ランプより明るく、安全で、安価なLEDランタンのレンタルサービスを提供するもの。小売店の夜間営業や、新たなビジネス機会の創出、子供の教育時間の増加、灯油ランプの代替による家計支出の抑制、健康状況の改善、温室効果ガスの削減等の効果が見込まれる。

2. 本邦技術の活用

- ✓ 東京大学発の本邦技術を活かした事業。
- ✓ TICAD VIナイロビ宣言（民間投資、起業、イノベーションの強化）にも合致。

タンザニアへの進出検討ポイント

- 農作物や鉱物などの資源は豊富。現地資源を最大限に活用したプランが得策。
- 物流手段は多様（陸路、空路、港）。日本に限らず、近隣国や欧米や中東などへの展開も見据える。
- タンザニア政府はビジネス環境改善に取り組んでいるものの未だ課題は多い。今は種まき期間と捉え、中長期的観点でのビジネス事業計画を検討を。
- 現地企業や人材との連携は不可欠。但し、未だ発展途上の現地企業が多い状況。当面の駐在員派遣や技術移転も視野に入れて検討を。

Karibu Tanzania!

お問い合わせ先：tz_oso_rep@jica.go.jp

1. 当冊子の内容の正確性、セキュリティ等には細心の注意を払っておりますが、コンテンツの誤り、第三者による人為的改ざん等が発生する可能性を全て排除することを保証するものではなく、JICAは、利用者各位が本サイト及び本冊子の情報を利用することによって生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。
2. 当冊子には、利用者各位の便宜のため、JICAの責任の及ばない第三者が提示したコンテンツ、リンク、及びその他の情報が含まれますが、これらの利用により生じた一切の損害（直接的、間接的を問わず）について、JICAは責任を負うものではありません。